

# 雨予報 10~30分先ぴたり

突然の雨でずぶぬれになり、外出のタイミングを間違った、なんて悔やむことがよくある。10~30分先の天気をきめ細かく予測できないものか。これをかなえるスマートフォン(スマホ)上のサービスが実験的に始まった。

(編集委員 石黒穂)

## スマホのサービス 実験的に

台風13号が関東地方に近づいた今月8日の午後、東京のJR神田駅で、降水予報アプリ「あめふるコール」を開いた。

現在時刻を起点に10分間隔の予報が表示される。10分先は「小雨」、20分先は「強い雨」。

土砂降りなら地下鉄を使うところだが、小雨なら傘を差して本社まで歩いた方がはやい。本降り前に余裕で着けそうだ。

途中コンビニに寄り、信号待ちでもたついた。会社の建物に入るか入らないかで雨脚が一気に強まった。セーフ。

それでも予報の的中ぶりに驚いた。

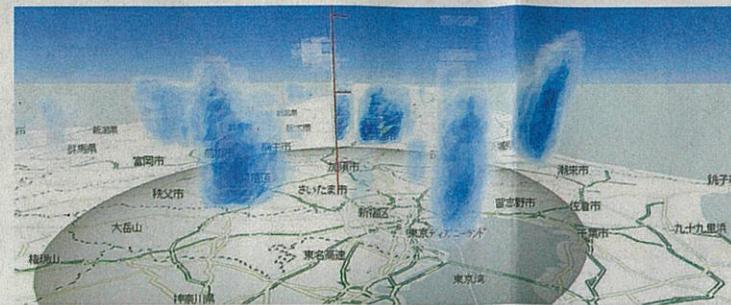
アプリを提供しているのはソフトウェア開発会社アルシリューション。スマホの位置情報に基づいて、利用者の現在地の降雨予報を表示する。

雨の強さが「小雨」「本降り」「強い雨」「猛烈な雨」など6段階で示される。

栗山章社長は「10分、20分、30分後の予報はどんぴしゃり。買い物に出るのを少し待とうという判断ができる」と言う。



埼玉大学の工学部建物屋上にある気象レーダー。高精度の降水予報を可能にしている



関東上空でレーダーがどうたら  
た雲の3次元イメージ(7月  
12日前半)(東芝イン  
フラシステムズ提供)

### 高精度予報の設定のやり方

スマートフォンの設定画面から位置情報をオンにしておく

- ① アプリの設定画面で、予報地点は「現在地」を選択
- ② 実証実験は、「参加しない」になっているのでこれをタップ
- ③ 実証実験の画面になるので「参加する」をタップ
- ④ 元の画面に戻って「保存」のマークをタップ
- ⑤ 高精度予測が表示される

アプリで表示する降水予報は、さいたま市の埼玉大学屋上に設置された最新の気象レーダーの観測データが基になっている。

データを基に日本気象協会が予報を行い、今月初めから、アプリに提供を開始した。

高い精度が出るのは、最新レーダーが上空で刻一刻と変化する雨雲の位置と密度、動きを連続的に観測できるため。

これにより250㍍四方の地上の領域ごとに、きめ細かい予報ができる。とりわけ、急激に発達し、局地的な豪雨をもたらす積

乱雲に対して威力を発揮する。

今回の予報サービスは、局地的な豪雨から国民の安全を守る国々の技術開発プログラムの下で、10月末まで行われる実証実験の位置づけ。

情報通信研究機構、防災科学技術研究所などによって、レーダー開発、予報ソフト開発などが進められてきた。

高精度の予報の対象は今のところ、最新レーダーのある埼玉大学から半径50㌔㍍の範囲。東京、埼玉の大半と、神奈川、千葉の一部などがカバーされる。

これ以外の場所では、別のレ

ーダーのデータなどに基づく通常の予報が表示される。

最新レーダーをゆくゆくは全国に展開する構想がある。

この降水予報サービスは、実証実験として、利用者の位置情報を集め、大雨の予報に接したときの行動を分析することも狙っている。高精度の予報を受け取るには、実証実験に参加して、位置情報提供に同意することが必要となる。同意しなくとも、通常精度の予報は配信される。